

教員はストレスフル

中学校の教職員70名を対象に、厚生労働省の「職業性ストレス簡易調査票」(5分)でできる57項目)を実施しました。その結果、2人に1人が「仕事の量的負担」「仕事の質的負担」「身体的負担」「抑うつ感」「不安感」「疲労感」「身体愁訴」「イライラ感」の8項目のストレス状態のどれかを慢性的に抱えているということがわかりました。

連載 心の悲鳴に耳を傾ける

かし「本音の語り」と「あら探し」は全く違うものです。これは子供・教員・保護者にとっても不幸な結果を生みます。

入学式は教員の品定め?

もしません。

現代は「ほめる」「認める」という社会的な習慣が希薄化したような気がします。「誰でもほめられたい」

「もちろん、これは教員においても言えることです。ところが、教員の置かれて

いる状況はとて厳しく、「苦情や不平不満は教員や学校に言ってもよい」とい

う風潮の中にさらされているのが現状です。

もちろん、よりよい教育を求めるためには、教員と保護者が「本音の語り」

をすることは必要です。し

る瞬間から大きなハンデ

を背負って子供たちの教育に携わることになるのです。

保護者対応

②保護者に知ってほしいこと

よりよい教育環境を作りあげる方法

担任の発表を、入学式で行う学校が多くあります。その際に保護者から「あたりだ」「はずれだ」という

教育のための運命共同体

「ほめる」「認める」ことで作る

「弱み」を認め合える関係

だ」とポジティブにその教員の強みや良さを探し出して

し、保護者と教員が「子供

のよりよい教育のためのチーム」として機能していく

ことが必要になるのです。

関係性を維持する事例が増えているということ。これをカウンセリングの

世界では「問題の外在化」と呼びます。この結びつき

は仮の適応ですので、実にもういものです。よりよい

なるのでしょうか。ひとつ例を示してみよう。

【教員(保護者)】のよいところ・強みを見る↓【家庭(学校)】で共有する↓

【教員(保護者)】に伝える↓【教員(保護者)】に

自信がつかう(自己効力感が高まる) ↓子供の【先生(保護者)】への信頼感が高まる

↓【教員(保護者)】の子供へポジティブな関わりが増える ↓子供が成長する

↓子供が【家庭(学校)】に結びつきの力をもらす

↓【家庭(学校)】が安定する ↓【家庭(学校)】で

【教員(保護者)】のよいところ・強みを見る余裕が

さらになります。

不思議なもので、この循環ができる

・子供が信頼感のなかで、

「弱み」を認め合い話し合える「絆」も生まれてきます。

これらのポジティブな循環を作り上げることが、子供の教育環境の向上と呼べる

のではないのでしょうか。そのためにも、教員、保護者や

地域の全てが「ほめて」「認め合う」ポジティブなつながりを持ち、「よい所取り

の教育環境づくり」「強みを生かす環境づくり」を推

進してほしいと思います。

それを子供たちに示していく必要があるのです。子供たちの将来は大人がつく

るものです。

過去記事は

www.kkenw.co.jp >

執筆川 鈴木隆広(すずき・たかひろ) 日本教職員メンタルヘルスカウンセラー協会会長、神奈川県内(市町

教育委員会) 教員相談スー

パーバイザー